

出資者「賭博事業 無資格で募った」

山本一朗会長は取材に「だます意図はない」などと主張した (安里洋輔撮影)



「競球」という新たな賭博事業に投資すれば高配当が得られるなどとうたい、無資格で約1億1千万円の預託金を集めたとして、出資者が出資法違反(預かり金の禁止)罪で、コンサルティング会社「競球ホールディングス」(東京都台東区)の「山本意致朗(こと山本一朗会長(76))に対する告発状を警視庁に提出していたことが29日、分かった。山本会長は「経済革命倶楽部(KKCC)」の巨額詐欺事件を主導したとして詐欺罪に問われ、平成16年に懲役8年の実刑判決が確定し、服役していた。

出資法違反 トラブル10億円か

元KKCC山本会長に告発状

競球HDをめぐるのは、配当の遅滞や出資金が返還されないなどのトラブルが続発。損害賠償訴訟も起きており、総額は計10億円に上る可能性があるという。告発状を提出したのは埼玉県と千葉県に住む男性2人。告発状によると、山本会長は平成26年11月から昨年5月までの間に「早く投資をすればもうかる」「年金のように安定的に配当金がもらえる」などと誘いかけて、2人は計48回にわたって計約1億1千万円を預けた。しかし、約束された配当額が支払われなかった。2人はそれぞれ約2900万円と約2100万円の損害を被ったとしている。

長は平成26年11月から昨年5月までの間に「早く投資をすればもうかる」「年金のように安定的に配当金がもらえる」などと誘いかけて、2人は計48回にわたって計約1億1千万円を預けた。しかし、約束された配当額が支払われなかった。2人はそれぞれ約2900万円と約2100万円の損害を被ったとしている。

「多くの会員は事業を理解」

山本一朗会長は28日、産経新聞の取材に応じ、「うちは自転車操業」などと説明した。おもな一問一答は次の通り。

山本会長 一問一答

「(昨年)1月に浅草の事務所」に4人組の強盗が入り、事務所のデスクに置いていた2億5千万円が強奪された。それでおかしくなった。デスクには一時4億円並んでいたが、今はせいせい700万円

「800万円というところ」出資者とトラブルになっていくと聞く。「そもそも事業への出資を呼びかけたこととはなく、会員から借り入れをしているだけだ。借金は配当金として返済している。偽物の債権が出ていて、それを持って『金を返せ』とやってくる連中もいる。トラブルになっているのは一部。多くの会員は僕の考えや事業を理解してくれている」

「そもそも「競球」とはどんな事業なのか」
「60年以上前、僕が中学1年の時に考えた事業だ。直径2mの50kgの球を転がして着順を競う。将来的に事業化すれば莫大な利益が出るのは間違いない」
「警察に被害を訴えている出資者もいる」
「うちは自転車操業なんです。泥棒に入られたりするなどトラブルが重なったが、不動産を売却するなどして配当金の支払いは続けている。事業は継続している。だから事件にはならない」

「10カ月前が22万円になる」
「10カ月前で22万円が50万円になる」などと高利な配当金の支払いや「元本保証」などとうたい、出資金を募っていたという。
関係者によると、出資者の中には日本人のほか中国人も多く含まれているという。日本国籍を取得した中国出身の出資者は「山本会長は中国人従業員を雇うなどして在日中国人の出資者の信用を得ていた。同胞同士の間でネットワークを通じて噂が広がったことも被害拡大の一因になった」と説明する。
同社をめぐるのは、出資者が損害賠償を求め訴えを起し、中国人投資家が東京地裁前で抗議デモを行う事態も起きている。また、160人以上の出資者が捜査機関宛てに捜査開始を訴える「嘆願書」を作成した。



経済革命倶楽部(KKCC)事件 山本一朗会長が平成7年に設立した団体KKCCで「買えば買っばどうなる」「未常識経済理論」をうたい文句に年利換算で400〜500%にも上る異常な高配当を約束して出資金を集めた。1年あまりで投資家1万2千人から出資金名目で現金約350億円を集めたが、そのほとんどを焦げ付かせたとされる。山本会長について1審東京地裁は「自ら勧誘活動を実践していただけでなく、人事、システムの策定、資金の管理や使途に至るまで全権を掌握していた」と認定した。